

寅さん歩 その13

お江戸の閻魔大王-4

(恵比寿～九品仏)



平野 武宏

お江戸の閻魔大王には「寅さん歩 その11 江戸・東京の祭-28 (江戸らしい祭-12) ご開帳される閻魔まつりで7ヶ所訪問しましたが、お江戸の閻魔大王はなんと44ヶ所もあるとのこと。2012年寅次郎がお江戸に移り住み、入会した東京都ウォーキング協会(以降TWA)では8回に分け、2年間かけて歩いて巡る予定と知り、「寅さん歩」の新たなテーマとして取り組みます。今回はその4です。閻魔大王にはご開帳の時(1月・7月)にしか、ご尊顔を拝見することが出来ませんが、当日はTWAが寺院に特別にお願いして、お会いすることが出来ます。

平成28年(2016年)10月9日の閻魔めぐり例会は雨でしたので、天気の良い日に1人で3ヶ所の閻魔大王と1ヶ所の奪衣婆にお会いに行きました。(累計24ヶ所、内2ヶ所は奪衣婆のみ)説明内容の一部は当日の配布資料も参照しています。最寄り駅は代表例です。

[渋谷山 福昌寺]

渋谷区東3-10-13 最寄駅 山手線 恵比寿駅



曹洞宗のお寺、平安時代の造立との縁起があるが、伝承不詳。渋谷橋を渡り、明治通りに面した、近代的な本堂の左側に閻魔堂がありました。閻魔堂の格子の間から閻魔様を撮影しました。

(写真下参照)



閻魔堂と中に鎮座の閻魔大王



〔天恩山 五百羅漢寺〕

目黒区下目黒 3-20-11 最寄駅 山手線 目黒駅

元禄 8 年（1695 年）本所に建立、徳川 5 代将軍綱吉、8 代将軍吉宗の援助を受け繁栄しました。明治維新後は寺運が衰退し、明治 41 年（1908 年）目黒に移転。昭和 54 年（1979 年）再建計画が立てられ、昭和 56 年現在の近代的な姿になりました。何度か訪れ、羅漢さんは見えますが、閻魔大王がいられるとは初めて知りました。受付で確認すると、閻魔大王はおられず、奪衣婆のみとのこと。以前は本堂に鎮座していたが、怖いお姿なので、屋上に移したとは屋上まで案内、シャッターを開けてくれた受付嬢の話です。「奪衣婆」は写真左の建物の屋上の壁の個室に鎮座。



〔泰叡山 瀧泉寺〕

目黒区下目黒 3-20-26 最寄駅 山手線 目黒駅

寺伝によると大同3年（808年）円仁が下野国から比叡山に赴く途中に不動明王を安置、創建したとのこと。第3代将軍徳川家光の庇護を受け「目黒御殿」と称されました。江戸五色不動の「目黒不動」で有名な天台宗のお寺です。

文化9年（1812年）には「江戸三富」と呼ばれる「富くじ」で賑わった地です。（他の2か所は湯島天満宮、谷中感応寺）仁王門（写真下左）を入り、境内右手に「地藏堂」（写真下右）があり、地藏大菩薩像の右側に「閻魔大王」、左側に「奪衣婆」が鎮座。寅さん歩その7江戸五色不動めぐりを参照ください。



[九品山 浄真寺]

世田谷区奥沢 7-41-3 最寄駅 東急大井町線 九品仏駅



極楽往生の9つの階層を表す9体の阿弥陀如来像が安置（九品仏）で知られる延宝6年（1678年）創建の浄土宗の古刹。東門を入ると参道右手に閻魔堂があります。

閻魔大王の右脇には奪衣婆がいます。今まで見たことのない現代的な表情で、手には荒縄を持っていました。

極楽往生の9つの階層とは上品上生、上品中生、上品下生、中品上生、中品中生、中品下生、下品上生、下品中生、下品下生とのこと。



平成28年（2016年）の「お江戸閻魔大王めぐり」は今回で終わり、残り4回は平成29年（2017年）1月から始まります。

[こぼれ話] 銅造 役の行者 倚像



「目黒不動尊」でお会いしました。
説明板によると『「役の行者」(役小角とも言う)は奈良時代の山岳修行者で、修験道の祖として宗拝されている人物です。

この像は寛政8年(1796年)の作で総高142.2m、座高92.7m、やや痩せ形の神秘的な面相、均整のとれた体軀や手足の表現、法衣や袈裟の衣文のしわなど、とても巧みで江戸時代の鑄造彫刻として優れた遺品です』と記載。

寅次郎、ウォーキングを始めた頃には「長い距離を速く歩きたい！」と山野を走り回った「役の行者」に会うたびに、手を合わせて、お願いしたものでした。
黒光りのおみ足は見事です。

今回は 東京にこんなところ-5 です。

平野 寅次郎 拝